

一六 蟠龍齋全珍正水裕書状（立石知満氏所蔵文書）

蟠龍齋全珍（水谷正村）、烏山城の那須資晴に、小田原北条方が皆川領から佐野領に陣を移したとや、味方中の一統を望んでいることなどを報じる。

五月之二日の貴札、今日八日参着、具奉披見候、抑去比者、於沢村之御勝利、其尅聊申達候キ、御悦喜之段、節々披露御書面候、且御隔心之至、且過当之至奉存候、内々其以往御当口之様躰無御心元令存候処、近日南衆出張皆川張陳、爰元手透依無之、是非不申達候、無沙汰之至、乍恐無御意元存候処ニ、結句態被仰出候、雖不始御事候、畏入奉存候、南衆去六日佐野領へ被移陳候、于今彼口被立馬候由申来候、此上可為如何候哉、太田ニも至り宮領御出馬、定可被及聞召候、於御様躰者、晴朝可申進候、然者去月十三日重而御勝利、其以後打続度々之御吉事、誠以不及是非候、御本望於都鄙不可有其隱候、万端南衆被納馬候時分、態可申達候、此上之御事者、先々千万之閣御不足、御味方中御一統奉念願候、晴朝滅亡致眼前候、不御一代御仕合、殊御当代御事者、御好味ニ被参候上、去与而者可被御覽し放事無之候、彼等之处、誠雖才覚申事候、御南様至り御当代別而被加御不敏候間、有儘申達候、此等之趣、宜被得御意候、恐々謹言、

（水谷正村）
蟠龍齋

（天正十三年）
五月八日

全珍（花押）

烏山御館

【読み下し文】

五月の二日の貴札、今日八日参着。具に披見し奉り候。抑も去んぬる比は、沢村に於いての御勝利、其の尅聊か申し達し候。御悦喜の段、節々御書面に露され候。且つうは御隔心の至り、且つうは過当の至りに存じ奉り候。内々其れ以往御当口の様躰御心元なく存せしめ候つる処、近日南衆出張し皆川に張陳。爰元手透之なきに依り、是非を申し達せず候。無沙汰の至り、恐れながら御意元なく存じ候つる処に、結句態と仰せ出され候。始めてならざる御事に候といえども、畏れ入り存じ奉り候。南衆去んぬる六日佐野領へ陳を移され候。今に彼の口に馬を立てられ候つる由申し来たり候。此の上如何たるべく候哉。太田にも宮領に至り御出馬。定めて聞こし召し及ばるべく候。御様躰に於いては、晴朝申し進らすべく候。然らば去んぬる月十三日重ねて御勝利、其れ以後打続く度々の御吉事、誠以つて是非に及ばず候。御本望都鄙に於いて其の隠れ有るべからず候。万端南衆馬を納められ候時分、態と申し達すべく候。此の上の御事は、先々千万の御不足を閣き、御味方中の御一統を念願し奉り候。晴朝の滅亡眼の前に致し候。御一代ならざる御仕合わせ、殊に御当代の御事は、御好味に参られ候上、去りとは御覽じ放たるべき事之なく候。彼等のところ、誠に才覚に申す事に候といえども、御南様の御当代に至り、別して御不敏を加えられ候つる間、有りの儘に申し達し候。此れらの趣、宜しく御意得らるべく候。恐々謹言。